

いざ、在宅避難!

1 安否を知らせる

風水害による浸水の恐れがない場合や地震が起こった後でも自宅で安全に過ごせる場合には在宅避難を検討しましょう。在宅避難をする場合も、お住まいの地域の決め事に従って自分や家族の安否を知らせてください。災害時にはご近所同士での声の掛け合い、助け合いがとても大切です。



2 避難所に「登録」する

在宅避難を始めた後で、食料などの物資が足りなくなった場合は、避難所で受け取ることができます。物資などの支援が必要な人は、避難所に家族全員の氏名や滞在場所を届け出る「登録」をしてください。電気、ガス、水道の復旧などの生活に必要な情報も避難所で手に入れることができます。



「在宅避難」で災害を乗り越える

避難生活が長くなるような大きな災害のときには、ストレスを少なくすることが大切です。住み慣れた「我が家」で過ごすことで、より安心して避難生活を送ることができます。また、プライバシーも万全で、感染症のリスクも抑えることができます。「在宅避難」であなたと家族の「日常」を守りましょう。

密を避けるためには在宅避難だけでなく、安全な地域の親戚や友人の家に避難することも有効な手立てです。いざという時に備えて、必要な準備をしておきましょう。

防災知っ得情報

刈谷市メール配信サービス

気象情報や避難情報、その他の災害情報などを、登録した携帯電話などにメールで配信します。新型コロナウイルス感染症への予防策などの情報も発信しています。9月よりサービス内容が増え、英語、中国語、ポルトガル語、ベトナム語での配信も可能となりました。

【登録方法】

①下記のQRコードへアクセスするか、「t-kariya@sg-p.jp」へ空メールを送信します。



▲スマートフォン



▲フィーチャーフォン

②本登録をするためのメールが返ってくるので、本文中のURLにアクセスし、登録をしてください。

■注意事項

利用規約への同意の上での登録をお願いします。[@city.kariya.lg.jp]ドメインあるいは[info-mail@city.kariya.lg.jp]のアドレスからのメールの受信を許可する設定を行ってください。また、URL付きメールの受信を許可する設定を行ってください。

防災ラジオの出張販売

- 時** 9月1日(火)～30日(水) (土日祝日を除く)
- 場** 北部・富士松・東刈谷・小垣江市民センター
- 対** 市内に住所を有する個人または事業所 (1世帯または1事業所に1台)
- ¥** ▶個人…2,000円 ▶事業者…5,000円
- 他** ▶購入から5年経過するごとに再購入可
▶メーカー保証は1年間
▶実費相当額 (9,500円) で2台目も購入可
▶電波の入りづらい場所があるため、事前にお持ちのラジオでPitch-FM (83.8MHz) が受信できるか確認してください。



在宅避難のススメ

市では、地震や風水害などの自然災害が発生する恐れのある場合や、実際に発生してしまった場合に、緊急の生活場所として避難所を開設します。しかし、新型コロナウイルス感染症が収束を見せない中、多くの人が集まる避難所は、「密閉」、「密集」、「密接」の「3密」が発生しやすい環境だと言われています。

避難所は被災した人が生活するために必要な場所ですが、避難所に行くことだけが避難ではありません。自宅が倒壊や浸水などによる危険がなく、安全な状態であれば、災害発生後も自宅で過ごす「在宅避難」も選択肢の一つです。

問 危機管理課 (☎62-1190)

避難所は集団生活

避難所は、慣れない環境で大勢が長い時間を一緒に過ごす場所です。大きな災害が起こると避難している人のストレスも大きくなります。また、集団生活になることからプライバシーの確保に不安を感じる人もいるかもしれません。手指消毒や換気など必要な対策を実施しますが、人が集まるため、どうしても感染症のリスクを伴います。



▲訓練時の避難所の様子

在宅避難の準備をしよう

1 自宅の安全確認

在宅避難をするには、あなた自身と家族が無事で自宅が安全であることが第一です。地震が起こっても、家屋や家具の下敷きになってけがをすることのないように、住宅の耐震改修や家具の転倒防止を実施しておきましょう。⇒住宅の耐震診断や改修の補助についてはP12をご覧ください。

2 ハザードマップの確認

大雨などによる浸水に備えて、ハザードマップで自宅周辺のリスクを確認しておきましょう。令和2年7月豪雨や平成30年7月豪雨(西日本豪雨)などにおいても、ハザードマップで浸水の恐れがあるとされていた区域(浸水想定区域)が大きな被害を受けました。



3 情報ツールの準備

災害や避難に関する情報を入手する手段を準備しましょう。市メール配信サービスや市公式ポータルアプリ「あいかり」で情報を手に入れることができます。また、市役所3階の危機管理課で販売している防災ラジオでは、緊急地震速報や避難勧告などの緊急情報を受け取ることができます。



4 備蓄をしよう

避難生活に必要な水や食料などを自宅に備蓄しておきましょう。水や食料は最低でも3日分、できれば1週間分を備蓄しておくことが望ましいとされています。また、大地震により下水道管が損傷して水を流せなくなると、トイレが使えなくなります。そんな時に困らないように携帯トイレセット(便袋・凝固剤・消臭剤)も準備しておきましょう。持病があり薬を服用している人は、常備薬を多めに持っておくと安心です。

その他備蓄例

マスク、ウェットティッシュ、おむつ、カセットコンロ、カセットボンベ、ランタン、モバイルバッテリー[※]

